

友の会通信 2009

No.4 (通巻53号) 2009.3.10発行

■ 目次	吉田東伍記念博物館友の会総会のお知らせ 1	『ビデオ講座 古典芸能シリーズ』鑑賞会 1
	博物館主催小企画展のお知らせ 1	会員の研究ノート『伝・水原満家の首塚について』 2
	開催決定!『第1回 新潟県内博物館等友の会サミット』... 4	友の会サークル「白河荘を歩く会」4月例会のご案内 ... 4
	会員随想／編集後記 4	

発行：吉田東伍記念博物館友の会 〒959-2221 阿賀野市保田1725-1 (阿賀野市立吉田東伍記念博物館内)
TEL0250-68-1200 FAX0250-68-5016 web版友の会通信<http://wind.ap.teacup.com/togo/>

平成21年度

吉田東伍記念博物館友の会

期日 4月12日(日)

時間 午後1時30分～

会場 阿賀野市立吉田東伍記念博物館研修室

議題 平成20年度事業報告、平成20年度決算報告、
平成21年度事業計画(案)、平成21年度予算(案)、その他

総会のお知らせ

『世阿弥十六部集』発刊100周年記念

友の会サークル「世阿弥“花の会”」企画

第1回 『ビデオ講座 古典芸能シリーズ』鑑賞会

平成21年は、吉田東伍の著書『世阿弥十六部集』の発刊から100年目を迎えます。友の会では、サークル「世阿弥“花の会”」を中心に様々な催しを計画中です。第1弾は、『ビデオ講座 古典芸能シリーズ』（企画・発行：(株)紀伊國屋書店、製作：(株)ポルケ）の鑑賞会です。今回はオープニングとして、第1巻「入門・能の技と心」を研修室の大型スクリーンで鑑賞します。振るってご参加ください。

期 日：4月12日(日)

時 間：午後2時30分～午後3時30分
(友の会総会終了後)

会 場：阿賀野市立吉田東伍記念博物館研修室

定 員：30名(先着順)

友の会会員以外の方は入館料が必要です。

申し込み：資料準備の都合上、4月10日(金)までに友の会事務局
(博物館内)へ電話(0250-68-1200)FAX(0250-68-5016)
メール(y.togo@oregano.ocn.ne.jp)でお申し込みく
ださい。

3月20日(金)まで好評開催中!

博物館主催小企画展のお知らせ

阿賀野市所蔵 近現代美術作品展 I

アスリートからの転身画家 小島清雄の20世紀

阿賀野市出身の洋画家、故・小島清雄(こじまきよお)の作品展を研修室で開催中です。同展では阿賀野市所蔵の作品を中心に郷里の所蔵家からの初出品、フランス滞在時のル・サロン展銀賞受賞作品も交え、約20点の作品を公開。受賞メダルも展示しています。

入館料：一般300円(通常入館料のみ、友の会会員は無料)



小島清雄「クロワジックの漁港」

伝・水原満家の首塚について

会員 小 林 弘 (こばやし ひろし)

過日開催された当会企画の行事・田中洋史氏の研究発表会の「史料から探る直江兼統とおせん」について、発表者からは貴重なお話を拝聴でき、有意義な一日を過ごす事ができました。紙面を借りて感謝申し上げるとともに、私のように、志をひとつに郷土史を学ぶ会員の方にもお会いする事ができ新会員として光栄に思っている次第です。

私は新発田市在住で、趣味を兼ねて史跡を歩いている者です。今後とも御指導の程よろしくお願いします。

自己紹介を兼ねて研究ノートに何を執筆しようか思案していました。そこで渡辺史生館長との雑誌で持ち上がった内容について紹介します。田中氏が講演内容に触れられていた天正年間の新発田合戦に登場する水原城主・水原満家の事です。

新発田合戦の様子は、江戸時代の元禄6年(1693)に完成した軍記物『管窺武鑑』で詳細に記載されています。著者は、上杉謙信の旧臣の子孫と伝える夏目定房で、上杉軍側からの立場で

戦闘の様子が記述されていますが、軍記物の性格上どこまで信憑性があるのかはよくわかりません。満家は新発田合戦で天正10年(1582)、上杉景勝方のしんがり役を務め、新発田因幡守重家の新発田勢の反撃に遭遇し法正橋付近で合戦となり、深傷を負い新発田市浦村付近で討死したとされています。

今回紹介するのは、伝・水原満家の首塚です。

五頭山地西麓に新発田市浦集落があり、昭和40年代半ばまで塚が存在し、地元の伝承で「水原満家の首塚」といわれていた場所があったといえます。地元の郷土史家によって、古老の話がまとめられています(渡辺2001)。その内容を紹介すると「一坪位でゴゴの木(ネムの木)があった。水原左近将藍満家の首塚である。奥方は尼になって荒川の比丘尼山の尼寺に住み、美しい尼さんであった。ある時、お坊さんが恋をし、恋敵の男を斬り殺した。翌朝斬られている人を見ると、尼さんであった。浦村の首塚と荒川の比丘尼山は連なっているようだ。昭和46年、首塚の横に豚舎を建て、その横に移した。浦村の和尚様に供養してもらった。四間四方の大きさであった。地藏様が三体あった。明治11年(1878年)の明治天皇巡幸の時、正法寺に移した」と、紹介され挿図の地図(地図1)も紹介されています。

塚の存在を示すと思われる「首塚跡」と記載のある明治44年(1911)測量、大正3年(1914)発行の地形図の存在を知りました(註)。その場所は現在のどの場所に相当するのだろうか興味を持



(渡辺2001) (塚の位置を示す挿絵)



写真1



写真2



ち、大正3年の地図をトレース紙に複写し、平成2年発行の地図（1/25000）（地図3）の上に重ね現在位置の特定を試みてみました。

その結果、五頭山地から派生する尾根の先端付近で、浦村の北端付近、平坦な水田地帯の浦村と小友を結ぶ道路の途中にその場所があることを知りました。（地図2・3○印）

早速、現地に赴き状況の確認をしました。

地元の聞き込みで、以前塚のような小山があったという情報を得ましたが、残念ながらその付近は豚舎や水田で、塚はすでに開発等で失われていました。（写真1）

塚の上にあったという石仏が新発田市浦の正法寺境内に安置されています。総数5体で、内訳は、出湯系阿弥陀如来坐像3体と系統不明石仏1体、立像1体です。左端のもの以外は花崗岩製です。一般的に、出湯系石仏は阿弥陀如来を表現したもので、阿弥陀如来は死者の極楽浄土への導師とされ、追善あるいは逆修供養を目的に造立されたものであると考えられています。40cm未満の小形のものが多く、蓮台部分が礫面状態のままで蓮台を彫らないのが特徴です。素材は花崗岩製の川原石です。出湯系石仏の分布は、阿賀野市出湯周辺に濃密に分布し、加茂市から村上方面にまで分布が見られるようです。造立時期は紀年銘を持つ出湯系の石仏が皆無のため未詳ながらも、造立年代は14世紀～15世紀代と考えられています。（水澤2000）

写真2の、左から2・3番目と、右端は蓮台部分が土中に埋没しているため、詳細は不明ですが、像容から出湯系の阿弥陀如来石仏と思われます。紹介した写真の左端のものは、凝灰岩製で近隣に無い石材であり他所からの搬入の可能性が考えられます。年代や系統など不明です。立像につ

いては、像容は風化や剥落等によって明確ではありませんが、恐らく地藏菩薩でしょう。阿賀北では、私が記憶しているものは、中世の石仏の立像は本例の他に新発田市上楠川神明神社境内、阿賀野市水原の双善寺、同市保田の孝順寺で類例が認められるだけで希少な存在です。そのうちの上楠川の例は蓮台の蓮弁の様相から14世紀代のものと考えられています。（水澤2002）

大雑把に満家、塚の事、石仏、それにまつわる伝承を紹介しましたが、伝承だけで、それぞれが直接に結びつくような証拠は見出せませんでした。しかし、塚のようなものが存在したことは、公である地図に記載されていて、周辺の人々にかかなり周知された場所であった事が窺い知れます。その規模や築造目的は不明ですが、なんとなく新発田合戦の様子が想像され、歴史のロマンを感じる場所でもあります。

真偽の程はよくわかりませんが、地元の方の伝承など興味深い内容であり、大切にしたいと考え、紹介した次第です。

（註）新発田市在住、鈴木暁氏からの情報

【参考文献】

- 越後史集刊行会（1916）『管窺武鑑』越後史集所収
- 水澤幸一（2000）「中世北陸の石塔・石仏」『越佐の様相』北陸中世考古学会
- 水澤幸一（2002）「阿賀北の中世石佛」『新潟考古』第13号 新潟県考古学会
- 渡辺勇一（2001）「伝説と化け物を語る」『新発田市八幡の歴史を語る会会報』第2号 新発田市八幡の歴史を語る会

開催決定!

「第1回 新潟県内博物館等友の会サミット」

新潟県内博物館等友の会連絡会（事務局：新潟県立歴史博物館友の会）は、加盟団体の情報交換と親睦を目的に「新潟県内博物館等友の会サミット」を開催することになりました。吉田東伍記念博物館友の会では、設立10周年を記念して第1回サミットを誘致します。信濃川大河津資料館、石油の世界館、十日町市博物館、津南町農と縄文の体験実習館「なじょもん」、新潟県立美術館、新潟県立歴史博物館、トミオカホワイト美術館の8団体（3月現在）の友の会会員が阿賀野市に集って交流を深めます。各友の会、そして博物館と友の会の連携の在り方を考える貴重な機会です。日程等の詳細は「友の会通信」「友の会通信 web 版」「広報あがの」等を通じてお知らせします。たくさんの会員の皆様にご参加いただき、友の会サミットを盛り上げましょう!

期 日：5月23日(土) 10:00～18:00(予定)

会 場：阿賀野市立吉田東伍記念博物館 ほか

参加予定者：各友の会会員及び一般市民100名

内 容(予定)：開会式、記念講演、友の会活動紹介、パネルディスカッション、閉会式、懇親会

会 員 随 想

会津坂下の旅『陣が峰城』跡

会員 星名 忠直（松山）

ひた走るバスに見詰む崖紅葉雪を透して紅滲む
県境の長きトンネル抜けて見る会津の村々雪の降り頻く
雪の降る会津の村里人気がなく鈴生りの柿獲らず残りぬ
山里を行きつ降りつ道尋ね『陣が峰城』へ漸くに着く
杉森の暗き敷地に今風の会館ありて招ぜられけり
見渡せば二重の空堀廻らして土塁が囲る城館の跡
城氏が会津に入り来てこの城を領地支配の拠点にせしとか
並びたる古墳ありとて尋ねしも遠くにて見つバスの中より
昼食の場所へとバスが上り行く家影見えぬ曲り曲りを
見え来たる昼食会場建物は大名館と見紛ふばかりに
格天も柱も櫓に漆塗り夢かと紛ふ会場なりて
案内人を待ちて寒さに堪え居たり宇内薬師の山門の下
説明の話は益々長くなり座する身体に寒さ染みくる
本尊を拝させ申すと案内され奥なる御堂の扉明けらる
一行のはいるを待ちて幕が開き大きな仏の現れましぬ
この土地に世々を伝える仏なり昔栄えし御堂なるか
重文の薬師なれどもお御堂の破損目立ちて心が痛む

友の会サークル 白河荘を歩く会

～安田城跡を歩く～ 4月例会のご案内

桜の季節です。
お花見をかねて、
手弁当を携えて白
河荘を歩く会の初
心の地「安田城」を
訪ねます。

日 時：4月16日(木) 11:00～14:00

集合場所：阿賀野市立吉田東伍記念博物館

参 加 費：200円(資料代・お茶代)

そ の 他：昼食を持参して下さい。

資料準備の都合上、参加ご希望の方は4月14日(火)までに友の会事務局(TEL0250-68-1200)へお申し込み下さい。

編・集・後・記

NHK大河ドラマ「天地人」の放送がスタート。視聴率も上々で、子役の「オラ、コンナトコ、キトウハナカッタ」が密かな流行語になっているとか。あんな薄着では越後の冬は寒だろうなどと、少しツツコミを入れつつ、母と子、喜平次と与六の情感あふれるシーンに心打たれた方も多いのでは。ともかくにも、災害から復興する新潟県の魅力を全国に発信できればと思う今日この頃。当友の会もサミットを通じて、博物館とそこに集う人たちの活動を発信しましょう。(H・T)